

平成30年度全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（概要版）

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象

小学校調査 小学校第6学年

中学校調査 中学校第3学年

(3) 調査事項

教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

「主として知識に関する問題（A問題）」と「主として活用に関する問題（B問題）」

質問紙調査

児童生徒に対する調査および学校に対する調査

(4) 調査実施日 平成30年4月17日（火）

(5) 調査を実施した学校、児童生徒数

小学校調査 4校 78人

中学校調査 1校 77人

2 調査結果の概況

全国（公立）の平均正答率より1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」

全国（公立）の平均正答率より1ポイント未満の場合・・・「やや上回った」「やや下回った」

(1) 教科に関する調査の全体的な状況

小学校

国語A・B、算数A・B、理科・・・・・・・・全国（公立）の平均正答率を上回った

中学校

国語A・数学A、理科・・・・・・・・全国（公立）の平均正答率を上回った。

○ 数学B・・・・・・・・全国（公立）の平均正答率をやや上回った。

○ 国語B・・・・・・・・全国（公立）の平均正答率をやや下回った。

* 平成30年度全国学力・学習状況調査問題については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。

小学校編

(2) 今後の指導で大切にしたいこと

	A 問題	B 問題
国語	○物語文、レポート、意見文など、構成の具体例を学び構成を工夫し書く活動を取り入れる。書いた文章を読み返し、推敲する習慣を付ける。 ○文の主語、述語を適切に照応させて文を読んだり、書いたりする活動を、繰り返し練習する。推敲の観点の一つとして取り入れる。	○文章を書く時には、相手意識、目的意識をしっかりともち、読み手に自分の思いや考えが伝わるよう文章構成や表現方法を工夫していく。 ○文章の内容を的確に押さえるために、「何のために」「何を知りたいのか」「どのような情報が必要なのか」を明確にし、読む習慣を付ける。
算数	○問題を読んでも立式できない時は、問題場面の数量の関係を図や数直線などに表して、数量の関係を捉えて立式する習慣をつける。 ○生活場面を想起しながら、%、割といった割合の意味を理解し、確実に求めることができるようにする。	○用いた数の意味や式の意味、答えの意味など、根拠を明確にしながらか説明する場を設定する。 ○グラフの特徴を複数の観点で捉えて情報を読み取ることができるようにするために、ペアやグループで、一つのグラフについて読み取ったことを説明し合う学習活動を行う。
理科	○学んだ事象と生活経験を関係付けて話し合う場を設定し、学んだことを実生活に生かしていけるよう配慮する。 ○実験前の計画や見通し、実験後の考察の場を大切に、児童一人一人が自分の考えをしっかりともち、検証していけるようにする。実験方法等、児童どうして検討する場面を設ける。	

今回課題となっている「読むこと」「書くこと」は、どの教科でも大切であり、必要です。平成32年度から全面実施される新小学校学習指導要領でも、すべての教科等で言語活動の充実を図ることが求められています。活字に慣れるために読書をしたり、手紙や日記を書いたりすることも効果的です。少しずつでも継続することが大切です。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率(問題に解答しない割合)が全国を上回る問題は少なかった。

児童質問紙調査の「問題の解き方が分からなくてもあきらめずいろいろな方法を考えているか」「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」についても、肯定的に回答した児童が全国を大きく上回っており、児童が学習に対して粘り強く取り組んでいることが伺える。今後も児童が自分の考えをもって主体的に、そして、しっかり思考できる授業づくりを目指していく。

(4) 質問紙調査の状況< >と今後の指導で大切にしたいこと< > (小豆島町の課題として経年比較している項目)

<p>自尊意識について</p> <p>「自分にはよいところがあると思うか」 (全国を下回った)</p> <p>「ほめる」「認める」言葉かけや集団づくりを行う。自分が役に立っているという思いを育てる。</p>	<p>コミュニケーション能力</p> <p>「自分の考えを説明、発表しているか」 (全国を下回った)</p> <p>自分の思いを言葉で伝える習慣付け、授業ではペア・グループによる交流の時間を確保する。</p>
<p>学習に関する関心・意欲</p> <p>○「の勉強は好きか」(全国を下回った)</p> <p>○「の勉強は分かるか」(全国を上回った)</p> <p>児童主体の「分かる」授業の推進を図る。課題解決の時間を確保し、達成感や満足感が味わえる機会を増やす。</p>	<p>家庭における学習習慣等</p> <p>○「家で予習復習をしているか」(全国を上回った)</p> <p>○「適切なテレビ・ゲーム等の時間」(全国を下回った)</p> <p>宿題等の学習習慣は早期に習慣付けることが大切でありよい傾向にある。テレビ・ゲーム等の時間は児童の成長にかかわるので改善を促す。</p>

* ()内は全国(公立)と比較した小豆島町の肯定的回答の割合

(5) 学校質問紙調査について

- 「**補充的な学習の指導を行ったか**」(全国を上回った)
- 「**授業改善、授業力向上のための校内研修を行ったか**」(全国を上回った)
- 「**児童がコンピューター等のICTを活用する学習を行ったか**」(全国を下回った)
- ICT機器の整備・補充を図り、児童の発達段階に応じて効果的に授業の中に取り入れ使っていく。

(2) 今後の指導で大切にしたいこと

	A 問題	B 問題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、書く活動を積極的に取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくする。書いた文章は読み手を意識して読み返す習慣をつける。 ○語句の意味を調べるだけでなく、短文づくり等を行い、実際に使えるようにする。別の表現がないか等、語句について考える場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手の反応を踏まえながら話すように助言する。実際の話合いの場を観察したり、振り返ったりしてよりよい話し方を考える場を設ける。 ○説明文を読む時には、文章の中心と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解できるようにする。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○2つ以上の文字を含む等式を a について解く、b について解くなど目的に応じて等式を変形し、そのよさを感じ得る場面を設ける。 ○図形の学習では、観察や操作する活動を通して図形がもつ特徴を数学的に捉え、その後、基本的な図形と結び付けて考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明する場を設ける。表や式、グラフなどを効果的に使って説明できるようにする。 ○場に応じて割合を百分率(%)、歩合(割・分・厘)を用いて表現できるようにする。数直線などを用い、基準量・比較量・割合を正しく捉える。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○電流に関する事物・現象を科学的に探究するために、電流と電圧に関する規則性を見出し、十分に理解を図る。2種類の抵抗器に加える電圧と流れる電流の大きさを測定する実験を行い、その結果をグラフに表し、電流と電圧の関係を調べる活動を行うなど、学習活動の工夫を行う。 ○基礎的・基本的な知識を習得する際に、実感を伴う理解を図るために、観察したり、実際に実験してみたり、日常の経験を想起したりする学習場面を設ける。 	

今回課題となっている「読むこと」「書くこと」は、どの教科でも大切であり、必要です。平成33年度から全面実施される新中学校学習指導要領でも、すべての教科等で言語活動の充実を図ることが求められています。活字に慣れるために読書をしたり、手紙や日記を書いたりすることも効果的です。少しずつでも継続することが大切です。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率(問題に解答しない割合)が全国を上回る問題が多かった。

授業の中で、自分の考えをもち表現する場面、解けない問題についてもいろいろな方法を試しながら粘り強く挑戦する場面を設ける。また、無回答が多かったのは「理由を述べる」「説明する」といった設問であった。そのために、分かっていることと問われていることを整理しながら読む力や自分の考えを論理的に説明する力を育てる学習活動も行っていく。

(4) 質問紙調査の状況< >と今後の指導で大切にしたいこと< >(小豆島町の課題として経年比較している項目)

<p>自尊意識について</p> <p>「自分にはよいところがあると思うか」 (全国を下回った)</p> <p>プラスの言葉かけや認め合える仲間づくりを行う。小さな「できた」を増やしていく。</p>	<p>コミュニケーション能力</p> <p>「自分の考えを説明、発表しているか」 (全国を下回った)</p> <p>生徒による主体的な学習を目指し、ペア・グループによる交流の時間を十分に確保する。</p>
<p>学習に関する関心・意欲</p> <p>○「<input type="checkbox"/> の勉強は好きか」 (全国を下回った)</p> <p>○「<input type="checkbox"/> の勉強は分かるか」 (全国を上回った)</p> <p>「分かる」「楽しい」授業を目指して授業改善を図る。課題解決の時間を確保し、達成感や満足感が味わえる機会を増やす。</p>	<p>家庭における学習習慣等</p> <p>○「家で予習復習をしているか」 (全国を下回った)</p> <p>○「適切なインターネット等の時間」(全国を下回った)</p> <p>学習の定着のために自主的な予習復習ができるよう促す。インターネット等の時間は家庭でのルールづくりが効果的であるので啓発する。</p>

* ()内は全国(公立)と比較した小豆島町の肯定的回答の割合

(5) 学校質問紙調査について

- 「 補足的な学習の指導を行ったか」 (全国を上回った)
 - 「 授業改善、授業力向上のための校内研修を行ったか」 (全国を上回った)
 - 「 近隣等の小学校と授業研究を行うなど、合同で研修を行ったか」 (全国を下回った)
- 今後も教師の授業力の向上を目指すとともに、小中合同の研修の場などを利用して連携を図っていく。